

JAMの主張

勝負の年 村田きょうこ 必勝へ

私たちの手に政治を取り戻す

2022年1月1日新年号あいさつ

JAM会長 安河内賢弘

【機関紙JAM・2022年1月1日発行 第275号】



謹んで新年のご祝辞を申し上げます。組合員並びにご家族の皆様におかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしく願い申し上げます。第6波への懸念はあるものの、新型コロナウイルス感染症の悲劇もようやく終幕を迎えつつあるように感じられ、少しずつではありますが、私たちの日常が戻り始めています。

これまでに把握されているだけでも約172万人の方が感染し、1万8千人を超える尊い命が失われました。感染症を恐れ、通院をためらったために治療が遅れ亡くなられた方や、困窮の中で絶望し自ら命を絶たれた方などを加えるとさらに多くの命が失われたこととなります。

もっと政治が私たちの生活に寄り添っていれば、救えた命があったのではないかと考えざるを得ません。二度とこのような悲劇を繰り返さない様に私たちの手に政治を取り戻していかなければなりません。今年はいよいよ勝負の年であり、私たちは「村田きょうこ」必勝に向け、政策実現活動に全力で取り組んでいます。組合員の皆様これまで以上のご支援を心からお願い申し上げます。

パンデミック後の社会を見据え、今次春季生活闘争における労使の議論は極めて重要です。カーボンニュートラルなどの技術革新にどのように対応していくのか。私たちの雇用や働き方はどう変わっていくのか。職場での議論を重ね、力強い要求を確立し、労使対等な立場で団体交渉を粘り強く行っていかなければなりません。

現存する3つの格差、すなわち規模間格差、男女間格差、雇用形態間格差がさらに拡大するのか、それとも自由で寛容で包摂的な社会の実現に向けて動き出し、格差が縮小に向かうのか、私たちは大きな岐路に立たされています。すべての働く仲間との強固な団結を胸に刻み、誰一人取り残されない新しい社会に向けて共に歩みを進めていきましょう。

結びとなりますが、国内外で働くすべての組合員とご家族の皆様にとって、2022年が健康で幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶とします。